



開学 100 周年に向けて

生涯学びを楽しむ

Enjoy Learning for Life

2016 年度 事業計画書

学校法人 名城大学



目 次

トップメッセージ	1
I MS-26 (2015年度～) 戦略プラン	2
II MS-26に基づく事業計画	4
(1) 名城大学における優先課題	4
(2) 名城大学附属高等学校における優先課題	4
(3) 2016年度事業計画の施策	5
1) 「人材の確保と育成」分野	5
2) 「教育の充実」分野	5
3) 「研究の充実」分野	6
4) 「社会貢献」分野	6
5) 「組織・経営改革 (組織・体制整備)」分野	6
III 中期事業計画 (2015年度～2018年度)	8

トップメッセージ

学生・生徒の人生を見据えた教育を Enjoy Learning for Life



理事長 小笠原 日出男

現在、少子高齢化による生産年齢人口の急減、グローバル化に伴う地球的規模の問題の顕在化、地球環境の悪化など、急速に社会環境が変化するなか、社会が求める人材も多様化、高度化してきています。

そうした中、本学では、立学の精神である「穩健中正で実行力に富み、国家、社会の信頼に値する人材を育成する」を普遍的理念と位置付け、今まさに社会が求めるバランス感覚と実行力を兼ね備えた人材の育成に努めてきました。2004年には、2015年を目標年とする「学校法人名城大学における基本戦略について（Meijo Strategy-2015）」（MS-15と通称）を策定し、掲げるビジョンの実現に向けて取り組んできました。その成果は、2014年度学部卒業生の実就職率において、卒業生2,000名以上の全国私大5年連続トップ、2015年にはリクルート進学総研調べの「志願したい大学ランキング（東海エリア）」において2年連続1位になるなどの形で表れてきました。附属高等学校においても、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業と、スーパーグローバルハイスクール（SGH）事業に採択され、特色ある教育を展開するなど、様々な成果が表れてきています。

また、2014年10月には、本学理工学研究科の赤崎勇終身教授がノーベル物理学賞を受賞され、本学の研究力の高さを国内外に示すこととなりました。

一方、中等教育・高等教育を取り巻く環境に目を向けますと、学齢人口の減少に加え、高大接続システム改革として、高等学校教育、大学教育及び大学入学者選抜を一体的に改革することが課題として挙げられるなど、各教育機関に対して、教育の在り方自体を根本から見直すことが強く求められています。

本学では、こうした環境変化を十分に踏まえつつ、開学100周年の2026年を目標年とする新たな戦略プランとして「Meijo Strategy-2026」（MS-26と通称）を策定しました。MS-26戦略プランでは、本学の創設から、今日まで築いてきた精神を「生涯学びを楽しむ」という言葉に託し、私たちが常に心に刻む価値観として掲げました。この価値観には、全ての学生・生徒が、本学の教育を通じて「学ぶ楽しさ」に気づき、人生を楽しみながら生涯学び続けてほしいという思いが込められています。社会が大きく変化する環境においては、必ずしも在学時の学びだけでは十分とは言えないことから、卒業後の人生も見据えた教育を展望しています。

この価値観を基本として、大学では「多様な経験を通して、学生が大きく羽ばたく『学びのコミュニティ』を創り広げる」、附属高等学校では「『多様な経験』を創り出す『挑戦する学校』」を将来像として設定しました。大学では、キャンパス内外での様々な人たちとの出会いや経験を通じて、学生が学び続けられるコミュニティの場を提供し続けること、附属高等学校では、生徒に多様な経験を提供し、常に挑戦し続ける高校を目指すことが、その意味するところです。

本学は、2016年度に開学90周年を迎えます。ナゴヤドーム前キャンパスの開設、外国語学部（国際英語学科）の設置など、本学は社会からの負託に応えるため、着実に次のステージに移行しつつあります。開学100周年を見据えた「MS-26」を軸に、絶え間ない改革を推し進め、学生・生徒が本学を卒業したことに誇りを持てる大学や学校づくりを目指して取り組んでいきますので、引き続きのご支援とご協力をお願いいたします。

2016年3月

I MS—26 (2015年度～) 戦略プラン



学長 吉久 光一

2015—2026

MS—26 (2016年度～) 戦略プラン [大学]

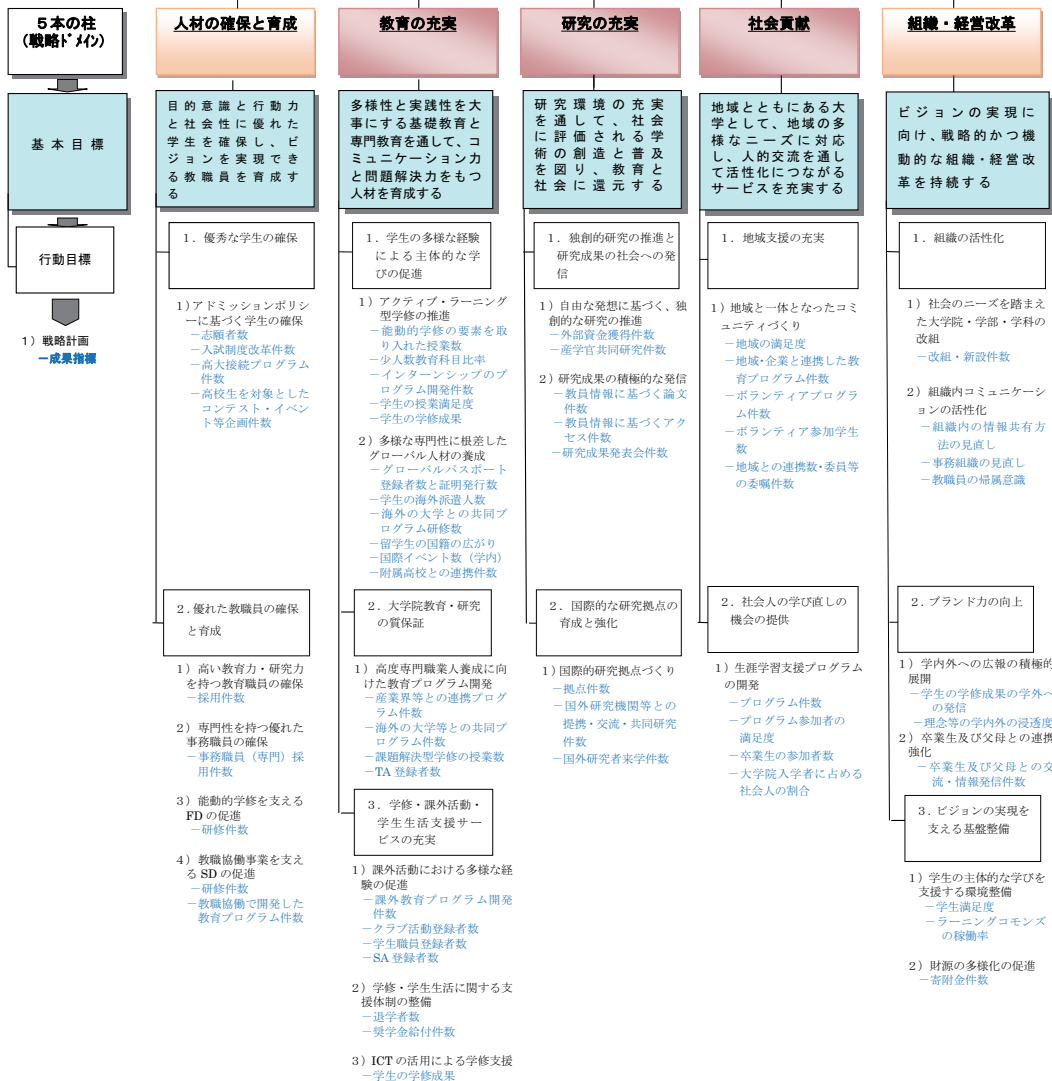
立学の精神：「穩健中正で実行力に富み、国家、社会の信頼に値する人材を育成する」

[大学・高校に関わる全ての人達と共有したい価値観]
生涯学びを楽しむ・・・「Enjoy Learning for Life」

Vision：多様な経験を通して、学生が大きく羽ばたく「学びのコミュニティ」を創り広げる

Mission：(教育ミッション) 主体的に学び続ける「実行力ある教養人」を育てる
(研究ミッション) 「学問の探究と理論の応用」を通して、成果を教育と社会に還元する
(社会貢献ミッション) 社会との「人的交流」を通して、地域の活性化に貢献する

Key Performance Indicators (KPI)：学生の大学に対する満足度、学生の学修成果、就職満足度、卒業後の帰属意識、教職員の帰属意識



2015—2026

MS—26 (2016年度～) 戦略プラン[附属高等学校]



学校長 岩崎 政次

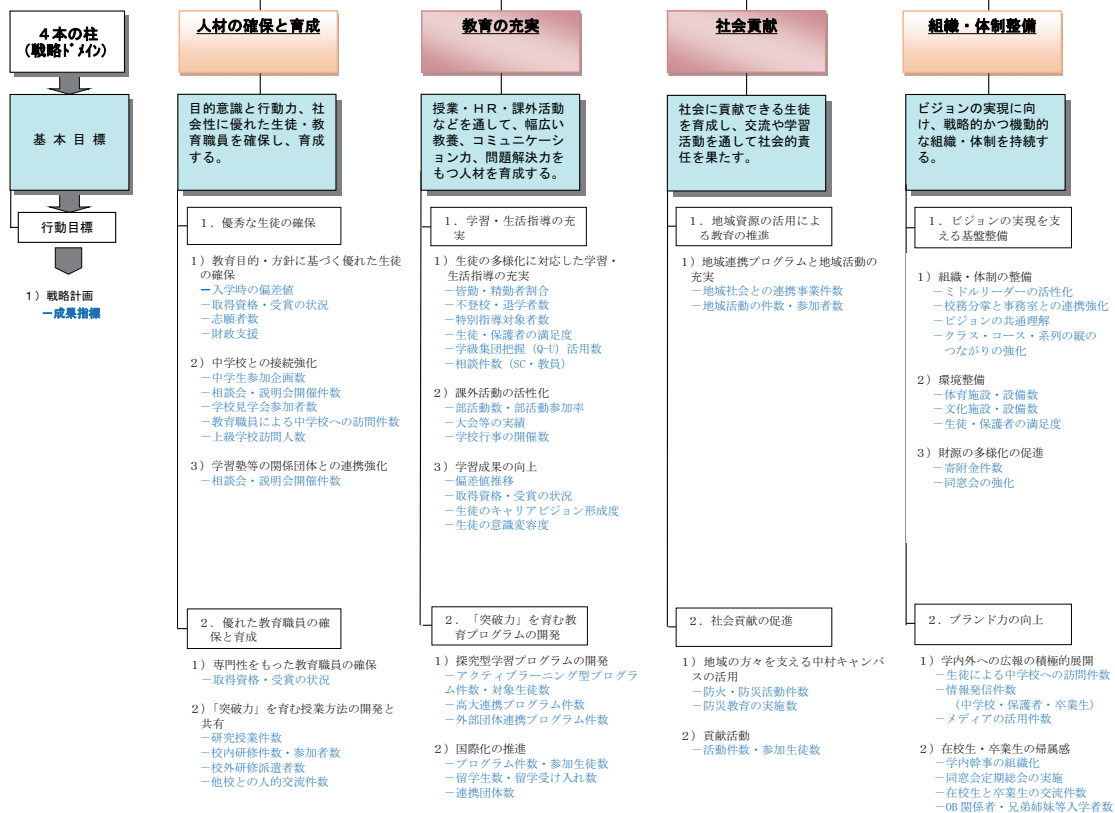
立学の精神：「**「穏健中正で実行力に富み、国家、社会の信頼に値する人材を育成する」**

[大学・高校に関わる全ての人間と共有したい価値観]
生涯学びを楽しむ・・・「Enjoy Learning for Life」

Vision：「**多様な経験を創り出す「挑戦する学校」**

Mission： **(教育ミッション)「主体的に学ぶ力」と「突破力」を備えた生徒を育成する**
(社会貢献ミッション)「人的交流」や「学習活動」を通して、社会的責任を果たす

Key Performance Indicators (KPI)：卒業後の帰属意識、生徒・保護者の学校に対する満足度



Ⅱ MS—26に基づく事業計画

本学が掲げる価値観「生涯学びを楽しむ」を踏まえ、2016年度は、次のテーマを重要課題として優先的に取り組みます。

■ 開学100周年（2026年）をマイルストーンとするビジョン

（名城大学）

多様な経験を通して、学生が大きく羽ばたく「学びのコミュニティ」を創り広げる

（名城大学附属高等学校）

「多様な経験」を創り出す「挑戦する学校」

（1）名城大学における優先課題

- 1) アドミッションポリシーに基づく学生の確保
- 2) 能動的学修を支えるFDの促進
- 3) アクティブ・ラーニング型学修の推進
- 4) 多様な専門性に根差したグローバル人材の養成
- 5) 課外活動における多様な経験の促進
- 6) 国際的研究拠点づくり

（2）名城大学附属高等学校における優先課題

- 1) 教育目的・方針に基づく優れた生徒の確保
- 2) 「突破力」を育む授業方法の開発と共有
- 3) 生徒の多様化に対応した学習・生活指導の充実
- 4) キャリア教育プログラムの開発
- 5) 探究型学習プログラムの開発
- 6) 国際化の推進



(3) 2016年度事業計画の施策

2016年度事業計画の施策を次のとおり掲げます。

1) 「人材の確保と育成」分野

《大学・高校》

○国内外の優れた学生・生徒及び教職員の確保に向けた取り組みを支援する。

《大学》

○能動的学修を支えるFD (Faculty Development) 活動の実質化策を支援する。

○教職協働事業を進めるため、事務職員の人材高度化を目指すSD (Staff Development) を支援する。

《高校》

○「突破力」を育む授業方法の開発や共有を推進する取り組みを支援する。

2) 「教育の充実」分野

《大学》

○学生の主体的な学びの促進に向け、アクティブ・ラーニング型学修の導入を支援する。

○ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー及びアドミッションポリシーとの一貫性を担保した、体系的なカリキュラム運営を支援する。

○内部質保証を前提とした自己点検・評価制度の再構築を支援する。

○多様な専門性に根差したグローバル人材の養成に向けたプログラム開発等を支援する。

○高大連携体制の充実を支援する。

○学士課程教育の質向上に向けて、特色ある教育拠点づくりを支援する。

○教育に係る外部資金の獲得を奨励し、支援する。

○大学院における国際的通用性の高い教育研究プログラムを支援する。

○課外活動における多様な経験の創出を支援する。

○学生の満足度向上に向けた学生支援の充実策を支援する。

○キャリア自己開発の観点から、進路・就職力の向上策を支援する。

○教職免許状取得に係る充実策を支援する。

《《高校》》

○生徒の多様化に対応した学習・生活指導の充実に向けた取り組みを支援する。

○「突破力」を育む教育プログラムの開発を支援する。

3) 「研究の充実」分野

《《大学》》

○自由な発想に基づく、独創的な研究の推進を支援する。

○教員の研究シーズを発掘し、新しい製品やサービス・事業を生み出すため、企業及び各省庁等との連携を支援する。

○外部研究資金の獲得を奨励し、支援する。

○研究成果の社会への積極的な情報発信を支援する。

○国際的研究拠点づくりを支援する。

4) 「社会貢献」分野

《《大学》》

○地域と一体となったコミュニティづくりを目指す取り組みを支援する。

○地域生涯学習プログラムに対する拠点づくりを支援する。

《《高校》》

○地域社会との交流促進を支援する。

5) 「組織・経営改革（組織・体制整備）」分野

《《大学・高校》》

○「MS-26戦略プラン」を踏まえた組織の活性化策に取り組む。

○ガバナンス体制の再構築に取り組む。

○本学の強みを意識した学内外への広報に取り組む。

○卒業生及び父母（保護者）との総合的な交流の促進を支援する。

○施設設備の充実に向けて、再開発計画の実行と評価に取り組む。

○投資財源の確保に向けて、財源の多様化及び収支構造の改善を促進する。

《大学》

○外国語学部（国際英語学科）の設置と学びの環境整備に取り組む。

○学部・研究科等の再編等の検討に取り組む。

○組織マネジメントの観点から、教職協働を踏まえた組織改革に取り組む。

○人材のプロフェッショナル化を促す人事考課制度の導入、給与体系の見直しに取り組む。

○社会的責任を踏まえた危機管理体制の構築に取り組む。

○都市情報学部、都市情報学研究科、人間学部及び人間学研究科のナゴヤドーム前キャンパスへの移転の準備を継続して取り組む。

○可児キャンパスの活用方法について、継続的に検討を進める。



■中期事業計画 (2015年度～2018年度)

【大学】

ドメイン	行動目標	戦略計画	事業内容	緊急度	達成度の指標 (2018年度目標)	責任者等	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度 以降
								ロードマップ			
人材の確保と育成	優秀な学生の確保 優れた教職員の確保と育成	<p>■国内外の優れた学生・生徒及び教職員の確保に向けた取り組みを支援する。</p> <p>ターゲットとする高等専修学校からの多様な優秀な学生増加策の検討</p> <p>高大接続管申を踏まえた入試制度の抜本的な見直し</p> <p>多様な国々からの優秀な留学生の確保策の検討</p> <p>多面的な視点からのアプローチによる教員数の検討</p> <p>優秀な教員採用に向けた制度構築 (学長裁量人事、外国人・女性など多様化促進等の検討)</p> <p>重点化項目に関わる事務職員の専門人材の採用</p> <p>■能動的学修を支えるFD (Faculty Development) 活動の実質化策を支援する。</p> <p>能動的学修を支えるFDの促進</p> <p>■教職協働事業を進めるため、事務職員の人材高度化を目指すSD (Staff Development) を支援する。</p>	<p>ターゲットとする高等専修学校からの多様な優秀な学生増加策の検討</p> <p>高大接続管申を踏まえた入試制度の抜本的な見直し</p> <p>多様な国々からの優秀な留学生の確保策の検討</p> <p>多面的な視点からのアプローチによる教員数の検討</p> <p>優秀な教員採用に向けた制度構築 (学長裁量人事、外国人・女性など多様化促進等の検討)</p> <p>重点化項目に関わる事務職員の専門人材の採用</p> <p>■能動的学修を支えるFD (Faculty Development) 活動の実質化策を支援する。</p> <p>能動的学修を支えるFDの促進</p> <p>■教職協働事業を進めるため、事務職員の人材高度化を目指すSD (Staff Development) を支援する。</p>	A	<p>ターゲットとする高等専修学校からの多様な優秀な学生増加策の検討</p> <p>高大接続管申を踏まえた入試制度の抜本的な見直し</p> <p>多様な国々からの優秀な留学生の確保策の検討</p> <p>多面的な視点からのアプローチによる教員数の検討</p> <p>優秀な教員採用に向けた制度構築 (学長裁量人事、外国人・女性など多様化促進等の検討)</p> <p>重点化項目に関わる事務職員の専門人材の採用</p> <p>■能動的学修を支えるFD (Faculty Development) 活動の実質化策を支援する。</p> <p>能動的学修を支えるFDの促進</p> <p>■教職協働事業を進めるため、事務職員の人材高度化を目指すSD (Staff Development) を支援する。</p>	<p>野口副学長 入学センター</p> <p>野口副学長 入学センター</p> <p>福島副学長 ★国際化推進センター 入学センター</p> <p>野口副学長 総合政策部</p> <p>板橋理事 総務部</p> <p>板橋理事 総務部</p> <p>野口副学長 大学教育開発センター</p> <p>板橋理事 総務部</p>	増加策検討	増加策実施	検証	増加策の検討と実施	
							情報収集		対応策の検討		
							学内体制検討		学内体制による入試制度設計		
							優秀な留学生の増加策の検討		検討策の実施		
							検討		検討結果の履行		
							教員採用に係る担当部門と連携して採用				
							受け入れ体制の検討と構築		採用と活用		
							各年度末に全学委員会で検証				
							実施・検証計画(全学・学部等)				
構築		構築									
SD 研修の運用											

ドメイン	行動目標	戦略計画	事業内容	緊急度	達成度の指標 (2018年度目標)	責任者等	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度		
								ロードマップ				以降	
教育の充実	学生の多様な学びによる主体的な学びの促進	<p>■学士課程教育の質向上に向けて、特色ある教育拠点づくりを支援する。</p>	学生の多様な学びを促進する教育プログラムを開発	A	正課外学習プログラムの開発件数	野口副学長 大学教育開発センター							
			基軸科目の充実化等による教養教育の指針に基づく再構築(キャリア教育、自校教育等の導入の可能性について検討)	A	教養教育連携推進委員会の開催数	野口副学長 ★大学教育開発センター 学務センター	学習相談室等の正課外学習の運営・改善						
			柔軟なアカデミックカレンダーの構築(秋入学、クォーター制度の導入も視野に)	B	検討会議回数 導入学部数	野口副学長 ★学務センター 新学部開設準備室		改革・運営(教養教育連携推進委員会) ★(法・外国語)					★全学部
			■ 教育に係る外部資金の獲得を奨励し、支援する。					検討・企画・立案					実施
			教育に係る補助金への積極的申請	B	申請件数 採択件数	野口副学長 大学教育開発センター		準備(申請資格への対応) 教育改善の推進・申請					
			■ 大学院における国際的通用性の高い教育研究プログラムを支援する。										
			大学院教育・研究の質保証	A	検討事項の具体化 件数	野口副学長 ★総合政策部 学務センター		方向性について検討					検討を踏まえた対応
			■ 課外活動における多様な経験の創出を支援する。										
			課外活動における多様な経験の促進	A	参加学生数 ボランティア活動の企画数	久保副学長 学務センター		学外調整 企画立案					
			学生参加の正課外プログラムを推奨し、拡大(学内のワークプログラム、学生企画によるプロジェクト、TA等)	A	参加学生数 プログラム数 活動報告書数	久保副学長 各センター		正課外プログラム全体像の検討 個別プログラムの開発・実施					実施
学修・課外活動・学生生活支援サービスの充実	学修・課外活動・学生生活支援サービスの充実	<p>■学生の満足度向上に向けた学生支援の充実策を支援する。</p>	退学者の減少に向けた対策の検討と推進(学生指導体制の充実、メンタルヘルズ対応を含む)	A	入学から4年間の退学者の比率 面談回数 会議検討回数	久保副学長 ★学務センター 保健センター 総合政策部		データ整理	総合的學生指導 企画・立案		各学部での実施		
			障がい者支援室の実施	A	障がい者支援室の設置と委員会の開催件数	久保副学長 ★学務センター 保健センター 入学センター キャリアセンター		成績不振者判定基準設定		面談の実施			
			ICTの活用による全学的な学修支援体制(学修サポートフォリオの導入等)の検討と活用	B	検討委員会との開催件数	野口副学長 ★大学教育開発センター 学務センター		設置準備			支援室の運営		
			ICTの活用による学修支援										検討開始

ドメイン	行動目標	戦略計画	事業内容	緊急度	達成度の指標 (2018年度目標)	責任者等	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
								ロードマップ			以降
教育の充実	学修・学生生活に関する支援 学修・課外活動・学生生活支援サービスの充実	■キャリア自己開発の観点から、進路・就職力の向上策を支援する。 学修・学生生活に関する支援体制の整備	就職に対する満足度向上に向けた対応 大学院生、留学生に対する進路支援の一層の充実 学生の資格取得支援の一層の充実	A	就職満足度	久保副学長 キャリアセンター		満足度指標についての検討			
								導入に向けた準備と導入			
							満足度指標についての検討				
							導入に向けた準備と導入				
研究の充実	独創的研究の推進と研究成果の社会への発信	■教職免許取得に係る充実策を支援する。 学修・学生生活に関する支援体制の整備	学制改革を踏まえた教職課程（免許制度）の在り方の検討	B	体制の再構築	野口副学長 ★総合政策部 教職センター 学務センター		学制改革に係る情報収集			
								学部との協働体制構築に向けた教職の在り方の検討			
								学制改革を踏まえた対応（検討時期は未定）			
								導入に向けた準備と導入			
研究の充実	独創的研究の推進と研究成果の社会への発信	■自由な発想に基づく、独創的な研究の推進 ■教員の研究シーズを発掘し、新しい製品やサービス・事業を生み出すため、企業及び各官庁等との連携を支援する。 自由な発想に基づく、独創的な研究の推進	外部資金獲得件数 産学官共同研究件数・金額	B	外部資金獲得件数 産学官共同研究件数・金額	磯前副学長 ★学術研究支援センター 総合研究所 財政部		外部資金獲得件数			
								学内研究費の戦略的配分方法の検討			
								受託研究、共同研究等の受け入れ件数増加策の再検討			
								受託研究、共同研究等の受け入れ件数増加策の再検討			
研究の充実	独創的研究の推進と研究成果の社会への発信	■外部研究資金の獲得を奨励し、必要な支援策を支援する。 自由な発想に基づく、独創的な研究の推進	外部資金獲得増加策の再検討	B	科学研究費申請件数 各種競争的資金の獲得件数・金額	磯前副学長 学術研究支援センター		科学研究費申請件数			
								外部資金獲得増加策の再検討			
								受託研究、共同研究等の受け入れ件数増加策の再検討			
								受託研究、共同研究等の受け入れ件数増加策の再検討			
研究の充実	研究成果の積極的な発信	■研究成果の社会への積極的な情報発信を支援する。 機関リポジトリの整備と公開	規定化されたた項目の開示 教員情報に基づく論文件数・アクセス件数	A	規定化されたた項目の開示 教員情報に基づく論文件数・アクセス件数	磯前副学長 ★附属図書館 学務センター 学術研究支援センター		公開情報の整理			
								公開			
								公開			
								奨励と実施			

ドメイン	行動目標	戦略計画	事業内容	緊急度	達成度の指標 (2018年度目標)	責任者等	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
								ロードマップ			
組織改善	組織の活性化	<p>■「MS-26 戦略プラン」を踏まえた組織の活性化策に取り組み。</p> <p>理念の浸透を含むMS-26 マネジメントシステムの構築 (IR 体制の構築を含む)</p> <p>組織内コミュニケーションの活性化</p> <p>■組織マネジメントの観点から、教職協働を踏まえた組織改革に取り組み。</p> <p>事務組織体制の再構築</p> <p>組織内コミュニケーションの活性化</p> <p>■人材のプロフェッショナル化を促す人事考課制度の導入、給与体系の見直しに取り組む。</p> <p>組織内コミュニケーションの活性化</p> <p>■ガバナンス体制の再構築に取り組む。</p> <p>組織内コミュニケーションの活性化</p> <p>■社会的責任を踏まえた危機管理体制の構築に取り組む。</p> <p>組織内コミュニケーションの活性化</p> <p>■本学の強みを意識した学内外への広報に取り組む。</p> <p>学内外への広報の積極的展開</p> <p>■卒業生及び父母(保護者)との総合的な交流の促進を支援する。</p> <p>卒業生及び父母との連携強化</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>システムの構築</p> <p>指針の策定</p> <p>事務組織の再構築</p> <p>制度の導入</p> <p>ICT スマート大学の具現化</p> <p>新人事制度の運用の開始</p> <p>選考方法等の検証と見直し</p> <p>体制の再構築</p> <p>教職員の帰属意識</p> <p>卒業生の帰属意識</p>	<p>野口副学長 MS-26 推進室</p> <p>野口副学長 MS-26 推進室</p> <p>武藤経営本部長 総務部</p> <p>野口副学長 総合政策部</p> <p>板橋理事 ★情報センター 総合政策部</p> <p>武藤経営本部長 総務部</p> <p>板橋理事 総合政策部</p> <p>板橋理事 総務部</p> <p>武藤経営本部長 渉外部</p> <p>武藤経営本部長 ★渉外部 学務センター</p>	<p>システムの開発と推進</p> <p>指針の策定</p> <p>再構築</p> <p>制度の検討</p> <p>制度設計</p> <p>戦略の構築</p> <p>見直し</p> <p>検討</p> <p>体制再構築</p> <p>検討</p> <p>検討</p> <p>検討</p>	<p>ロードマップ</p> <p>新事務組織体制</p> <p>制度の導入</p> <p>具現化</p> <p>新人事制度の運用</p> <p>新制度導入</p> <p>新体制の運用</p> <p>実施と検証</p> <p>実施と検証</p>				
								新体制の運用			
								新制度導入			
								新体制の運用			
								実施と検証			
								実施と検証			
								実施と検証			
								実施と検証			
								実施と検証			
								実施と検証			
実施と検証											

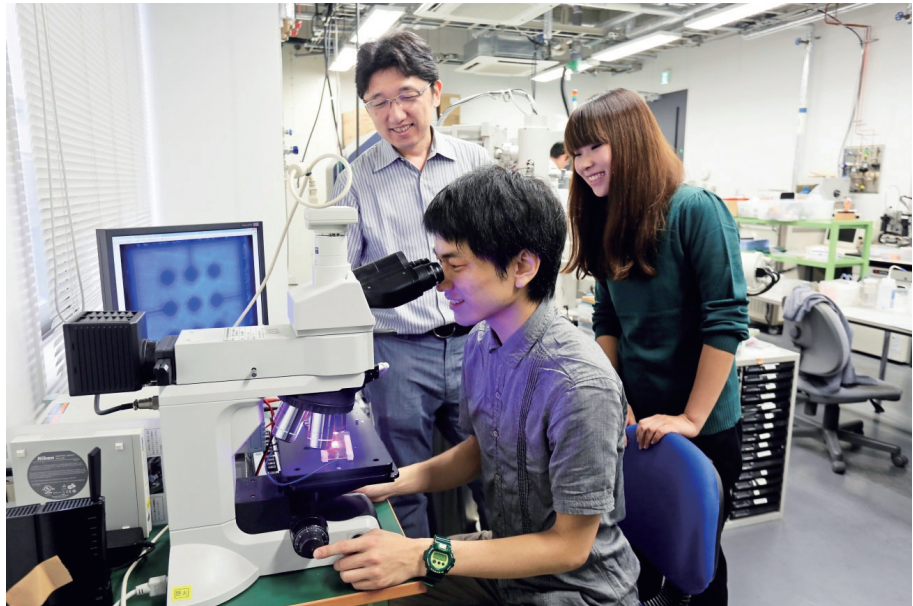
ドメイン	行動目標	戦略計画	事業内容	緊急性	達成度の指標 (2018年度目標)	責任者等	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	
								ロードマップ			以降	
組織・経営改革	ビジョンの実現を支える基盤整備	<p>■施設設備の充実に向けて、再開発計画の実行と評価に取り組み。</p> <p>学生主体の学びを支援する環境整備</p> <p>学生主体の学びを支援する環境整備</p> <p>■都市情報学部、都市情報学研究所、人間学部及び人間学研究所のナゴヤドーム前キャンパスへの移転の準備を継続して取り組む。</p> <p>■可児キャンパスの活用方法について、継続的に検討を進める。</p> <p>■投資財源の確保に向けて、財源の多様化及び収支繰越の改善を促進する。</p>	<p>キャンパスにおける環境保全の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ■新校友会館の建設(校友会館・郵便局解体も含む) ■4号館A棟・I1号館改修 ■国際化拠点施設整備 ■アプローチ整備前期中工事 ■研究実験棟IIIの建設 ■4号館Aの一部・B、C解体 ■春日井(鷹来)新本館の建設(現本館改修含む) 	A	<p>キャンパス内の環境保全の全体的な向上</p> <p>スケジューリングの実施 学生の満足度</p>	<p>久保副学長 総務部</p> <p>野田理事 施設部</p>	名城環境マネジメントシステムによる環境保全活動と検証					
							↑	↑	↑	↑	↑	
							↑	↑	↑	↑	↑	
							↑	↑	↑	↑	↑	
							↑	↑	↑	↑	↑	
							↑	↑	↑	↑	↑	
							↑	↑	↑	↑	↑	
							↑	↑	↑	↑	↑	
							↑	↑	↑	↑	↑	
							↑	↑	↑	↑	↑	
			<p>■都市情報学部、都市情報学研究所、人間学部及び人間学研究所のナゴヤドーム前キャンパスへの移転の準備を継続して取り組む。</p>		学生の満足度	久保理事 新キャンパス開設準備室	移行準備	↑				
			<p>ナゴヤドーム前キャンパスの教育・研究環境の整備(キャンパスのコモンセプトの具現化)</p>	A	方向性の確定	板橋理事 ★総合政策部 施設部	検討	↑	検討結果を踏まえた対応			
			<p>可児キャンパスに対する今後の対応の検討</p>	A								
			<p>財源の多様化の促進</p> <p>新たな予算制度の構築</p>	B	事業活動収入 (255億円以上)	野田理事 ★財政部 MS-26推進室	セグメント別損益分岐点作成 収入の多様化、支出の削減策提案 事業評価に基づく予算配分の検討	↑				

ドメイン	行動目標	戦略計画	事業内容	緊急度	達成度の指標 (2018年度目標)	責任者等	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
								ロードマップ			以降
教育の充実	1. 学習・生活指導の充実	<p>■生徒の多様化に対応した学習・生活指導の充実</p> <p>○総合的なカウンセリングの充実を図る為、支援体制を強化</p> <p>○生徒の多様化に対応し、個々の生徒に応じた学習指導法を確立するため、各教科において教材・指導方法を工夫</p> <p>○3年間を視野に入れた年間の学習指導計画を定期的に見直し、家庭学習を改善</p> <p>○遅刻、早退、欠席の理由を把握し、現状の課題を教員間で共有した上で、基本的な生活習慣が身に付くよう指導</p> <p>○課外活動もデジタル化に拠る「多様な経験」の一つとして位置付け、参加率を向上させると同時に、学習との両立を実現</p> <p>○学習成果を可視化するための学習評価の方法を研究開発し、授業改善に活用</p>	A	スクールカウンセラー相談件数	科長 生徒指導部	支援体制強化策の検討	ロードマップ				
				カウンセラー相談回数		支援					
				学習成果		各教科において教材・指導方法を工夫					
				家庭学習時間		学習指導計画の定期的見直し	教務部				
				遅刻、早退、欠席件数		理由の把握と課題の共有	教務部				
				参加率		課外活動の奨励	科長				
				企画件数							
				学習成果		評価方法の開発	進路指導部				
社会貢献	<p>■「突破力」を育む教育プログラムの開発を支援する。</p> <p>1) 探究型学習プログラムの開発</p> <p>2) 国際化の推進</p> <p>■地域社会との交流促進を支援する。</p> <p>1) 地域連携プログラムと地域活動の充実</p> <p>2) 社会貢献の促進</p>	<p>○「突破力」を育む探究型学習プログラムを開発する。</p> <p>・生徒の意欲を引き出す探究型学習プログラムを開発し、3年間の体系的なプログラムを構築</p> <p>○「突破力」を育む国際化を推進する。</p> <p>・「多様な経験」の視点により、国際交流プログラムを充実させ、参加生徒数を増加</p> <p>・留学生数、連携団体数を増加させ、生徒に多様な価値観と出会う場を提供</p>	A	学習成果	教務部 教育開発部	プログラム開発	検証と改善策の検討				
				対象生徒数		プログラム推進					
				学習成果		検証と改善策の検討					
				対象生徒数		プログラム推進	教育開発部				
				プログラム開発		検証と改善策の検討					
				プログラム推進							
				プログラム開発		検証と改善策の検討	教務部				
				対象生徒数		プログラム推進	教育開発部				
				活動件数		活動の推進	生徒指導部				
				防災教育実施件数		防災教育の推進	生徒指導部				
活動件数	活動の推進	生徒指導部									

ドメイン	行動目標	戦略計画	事業内容	緊急度	達成度の指標 (2018年度目標)	責任者等	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	
								ロードマップ			以降	
組織・体制整備	2. ブランド力の向上	1) 卒業生及び保護者との総合的な交流の促進を支援する。 2) 在校生・卒業生の帰属感	○同窓会組織との連携を強化するとともに、卒業生と在学生とが交流する機会を増加	B	交流件数	学内幹事 事務	検討 ↑					
			○学内幹事の組織化	B	組織化	学内幹事	組織化 ↑					
			○90周年記念総会に向けて、コア幹事会を実施	A	組織化	学内幹事	開催準備 ↑					

※緊急度：A 緊急度→最も高い B 緊急度→やや高い

※★：主担当部署



連絡先

名城大学 経営本部 総合政策部

TEL : (052)838-2005

FAX : (052)832-2317

E-Mail : oosousei@ccmails.meijo-u.ac.jp



RISING

つながりを、チカラに。

MEIJO UNIV.